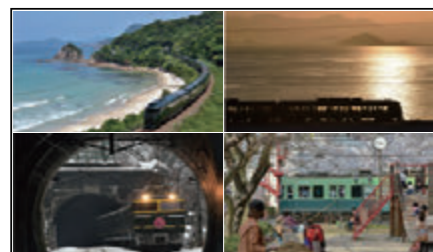
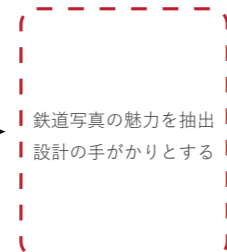


# PHOTO SCAPE

-鉄道写真からつくる「生きられる景観」としての駅-



鉄道写真のアーカイブ



「鉄道のある風景」の教え



「生きられる景観」としての駅  
(「撮り鉄」が撮りたくなるような駅)

「撮り鉄」が撮りたくなる風景(=「生きられる景観」)を駅につくることで、人々に集い・憩い・活力を提供し、鉄道駅からまちを活気づける。

生きられる景観とは、休息性と眺望性を兼ね備えた、美しい景観だ。

撮り鉄は、鉄道車両そのものより、周りの景観に重きを置き、「生きられる景観」を追い求めて、場所を選びすぐって撮影している。

撮り鉄が撮りたくなるような駅を設計すれば、「生きられる景観」を作り上げることができるのではないだろうか。

鉄道写真が「生きられる景観」への道標となることを、今作を通じて証明する。



# Site

広島県尾道市 JR山陽本線 尾道駅



尾道水道や向島などの瀬戸内の風景が広がり、それに隣接するように斜面地が形成されている尾道は、坂の街として知られ、大林宣彦監督の「時をかける少女」の舞台になるなど、景観資源に恵まれている。また、「しまなみ海道サイクリングロード」の本州側起点となっており、2014年にはサイクリスト向けに特化した観光拠点の「ONOMICHI U2」が開業したり、人になれた猫が多いことから猫好きが集まるなど、様々な要因で観光業が盛んである。

一方、現在の駅前空間はアスファルトの道路やマンション、立体駐車場などが目立ち、無機質で殺風景な印象である。また、駅ビル群が千光寺山から海への眺望を遮っており、周囲の景観資源を活かすどころか、むしろ悪影響を与えている。



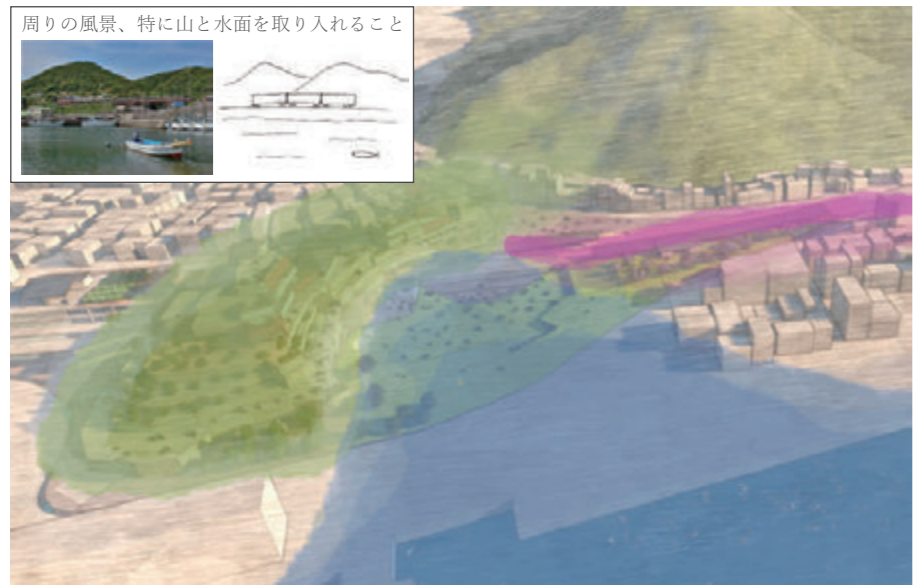
アスファルトの道路やマンションが印象的な殺風景の駅前



海への見晴らしを阻害している駅ビル群

# Diagram

敷地の現状に対し、具体的にどのような鉄道写真の魅力を用いて、どのような風景を生み出すか？



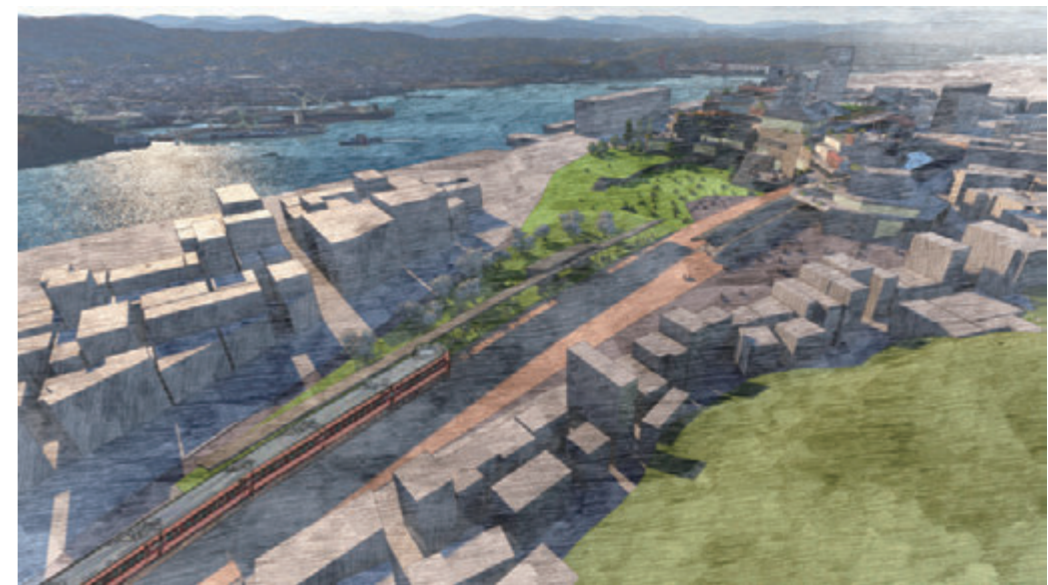
尾道の山、海、商店街の街並みと連なり、一体となった風景をつくる

# Effect

そのような風景を駅につくることで、まちにどのような波及効果があるのか？

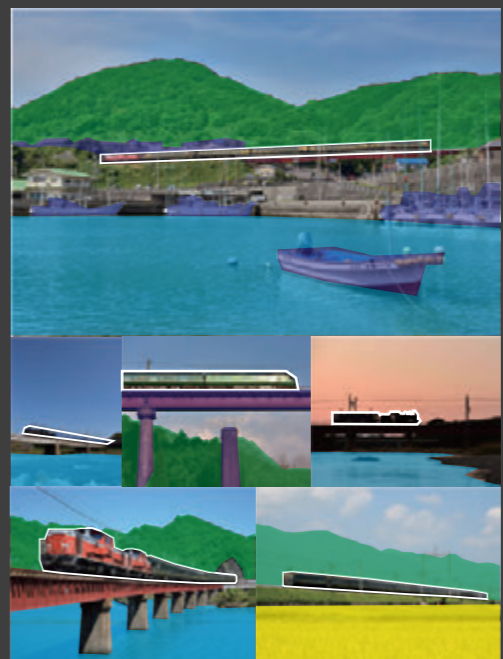
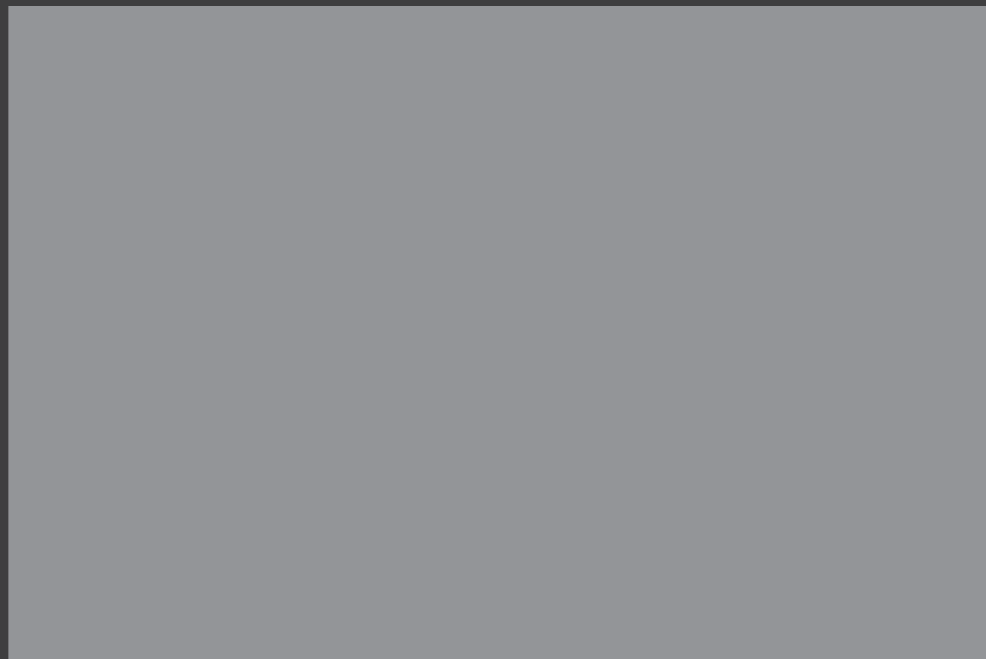


駅自体が魅力的なオープンスペースとなり、街の玄関口として機能する



周辺（千光寺山など）からの景観が向上することで、周辺地域が活性化する







# アーカイブ・分析

前項は、収集した鉄道写真をアーカイブ化したものである。アーカイブに際し、①構図、②要素の観点から分類し、それぞれについて分析した。

## 構図の分析

「撮影者と列車」「風景と列車」の関係を基準に鉄道写真の構図を分析し、9タイプに分類。各タイプの枚数と典型例を下の表に示す。

	A. 水平 25枚	B. 俯瞰 24枚	C. 見上 16枚
1. 前景 16枚	A1 10枚	B1 0枚	C1 6枚
2. 背景 21枚	A2 5枚	B2 12枚	C2 4枚
3. 両方 28枚	A3 10枚	B3 12枚	C3 6枚

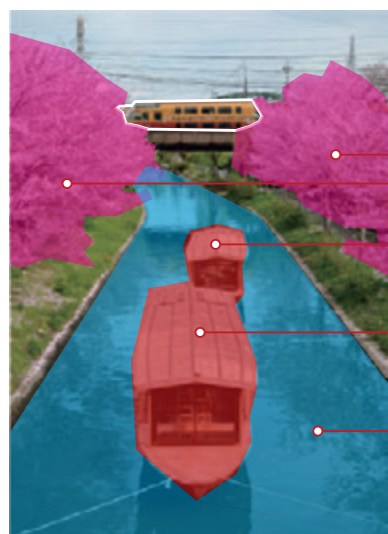
※定義

1. 前景-「列車」の手前に「被写体となる風景」が存在
2. 背景- 「奥」
3. 両方- 「手前・奥の両方に」

- A. 水平-列車と撮影者が同じ高さに存在
- B. 俯瞰-列車が撮影者よりも低い位置に存在
- C. 見上- 「高い位置」

## 要素の分析

要素類型表に示す種類・色分けに従い、風景を構成する要素ごとに着色。下に例を示す。



- 桜の木々-種類：木・花（立面的な自然物）
- 舟の屋根-種類：屋根面（平面的な人工物）
- 川の水面-種類：水面（平面的な自然物）

要素類型表

	平面	立面
自然物	水面 田・花畑	空 山 木・花
人工物	広場 屋根面	壁面

## 統計表

左で行った「構図の分析」と「要素の分析」を一つの統計表にまとめた。

なお、「3.両方」タイプは、前景と背景を分けて、それぞれについて「要素の分析」を行っている。

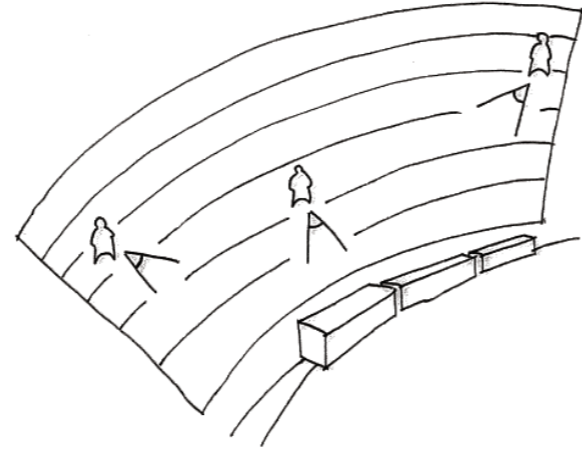
合計 65枚	A. 水平 25枚		B. 俯瞰 24枚		C. 見上 16枚		
平面 66 立面 81	平面 15 立面 35	平面 42 立面 25	平面 9 立面 21	自然物 117 水面 32 山 31 田・花畑 22 木・花 24	自然物 38 水面 7 山 8 田・花畑 6 木・花 16	自然物 53 水面 19 山 16 田・花畑 13 木・花 3	自然物 26 水面 6 山 7 田・花畑 3 木・花 5
人工物 30 広場 12 屋根面 12	人工物 12 広場 2 屋根面 2	人工物 14 広場 10 屋根面 10	人工物 4 広場 4 屋根面 4	1. 前景 16枚	A1 10枚	B1 0枚	C1 6枚
平面 11 立面 17	平面 7 立面 9	平面 立面	平面 4 立面 8	2. 背景 21枚	A2 5枚	B2 12枚	C2 4枚
自然物 22 水面 5 山 1 田・花畑 5 木・花 11	自然物 12 水面 3 山 3 田・花畑 3 木・花 6	自然物 水面 山 田・花畑 木・花	自然物 10 水面 2 山 1 田・花畑 2 木・花 5	3. 両方 28枚 (前景)	A3 10枚	B3 12枚	C3 6枚
人工物 6 広場 1 屋根面 1	人工物 4 広場 1 屋根面 1	人工物 広場 屋根面	人工物 2 広場 2 屋根面 2	3. 両方 28枚 (背景)	A3 10枚	B3 12枚	C3 6枚
平面 21 立面 22	平面 2 立面 8	平面 19 立面 10	平面 立面 4	自然物 34 水面 9 山 13 田・花畑 6 木・花 4	自然物 7 水面 1 山 3 田・花畑 3 木・花 3	自然物 23 水面 8 山 8 田・花畑 6 木・花 1	自然物 4 水面 2 山 2 田・花畑 1 木・花 2
人工物 9 広場 6 屋根面 6	人工物 3 広場 1 屋根面 1	人工物 6 広場 5 屋根面 5	人工物 広場 屋根面	3. 両方 28枚 (前景)	A3 10枚	B3 12枚	C3 6枚
平面 25 立面 12	平面 6 立面 6	平面 14 立面 4	平面 5 立面 2	自然物 28 水面 13 山 9 田・花畑 9 木・花 6	自然物 10 水面 3 山 3 田・花畑 3 木・花 4	自然物 13 水面 6 山 5 田・花畑 5 木・花 2	自然物 5 水面 4 山 1 田・花畑 1 木・花 1
人工物 9 広場 3 屋根面 3	人工物 2 広場 2 屋根面 2	人工物 5 広場 3 屋根面 3	人工物 2 広場 2 屋根面 2	3. 両方 28枚 (背景)	A3 10枚	B3 12枚	C3 6枚
平面 9 立面 30	平面 立面 12	平面 9 立面 11	平面 立面 7	自然物 33 水面 5 山 17 田・花畑 2 木・花 3	自然物 9 水面 1 山 5 田・花畑 3 木・花 3	自然物 17 水面 5 山 8 田・花畑 2 木・花 2	自然物 7 水面 3 山 4 田・花畑 1 木・花 1
人工物 6 広場 2 屋根面 2	人工物 3 広場 3 屋根面 3	人工物 3 広場 2 屋根面 2	人工物 広場 屋根面				



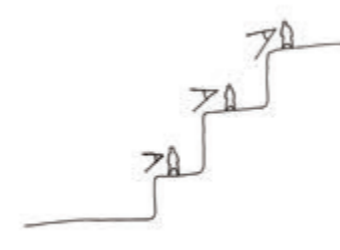
# 「鉄道のある風景」の教え

分析から明らかになった「鉄道のある風景」の魅力や、設計の手がかりとしてまとめた。

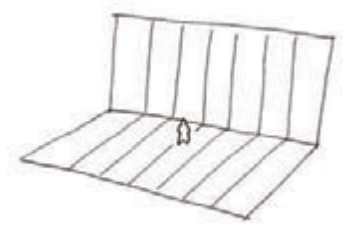
様々な角度から見られること



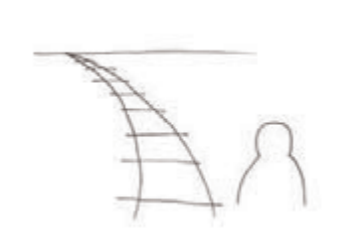
様々な高さから見られること



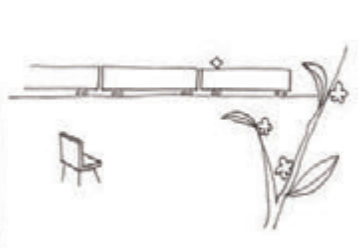
平面と立面がともに存在すること



どこかにつながっている期待感があること



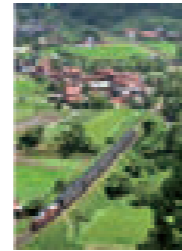
小さな立面をつくり前景とすること



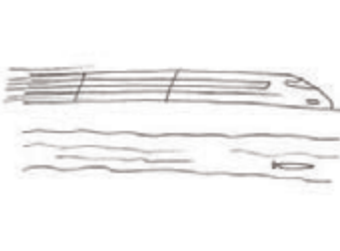
期間限定の風景をつくること



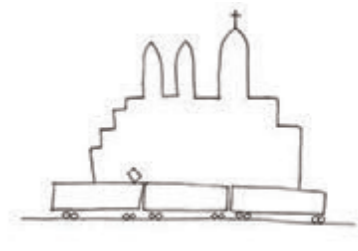
地域限定の風景をつくること



流れが感じられる場であること



大きな立面をつくり背景とすること



人がつくる賑わいを風景に取り入れること



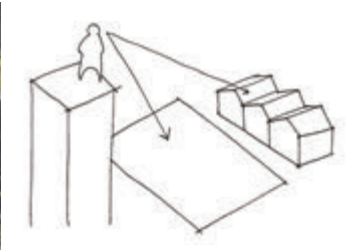
周りの風景、特に山と水面を取り入れること



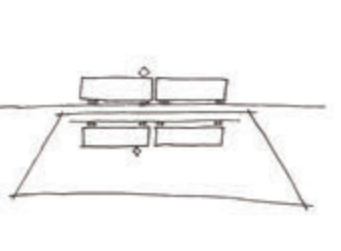
自然物で溢れる風景をつくること



特徴的な平面を俯瞰できる場を設けること



リフレクションを活かすこと



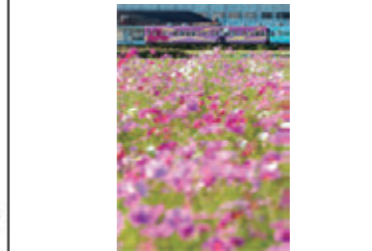
光を楽しめる場を設けること



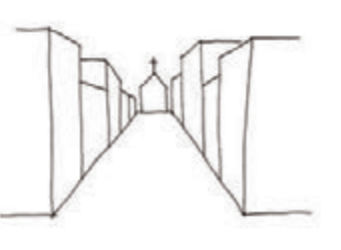
空を見上げれる場を設けること



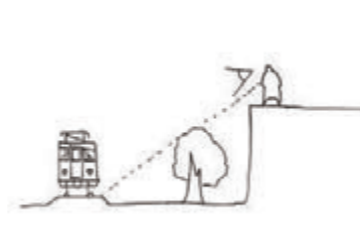
色鮮やかであること



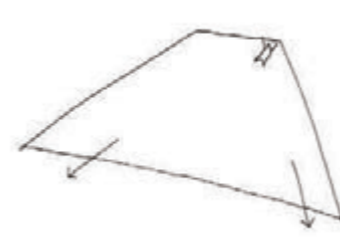
通景の先にアイストップを設けること



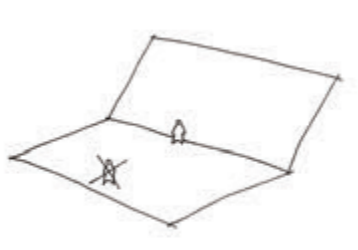
線路・車両への見通しがいいこと



のびのびとした広がりがあること



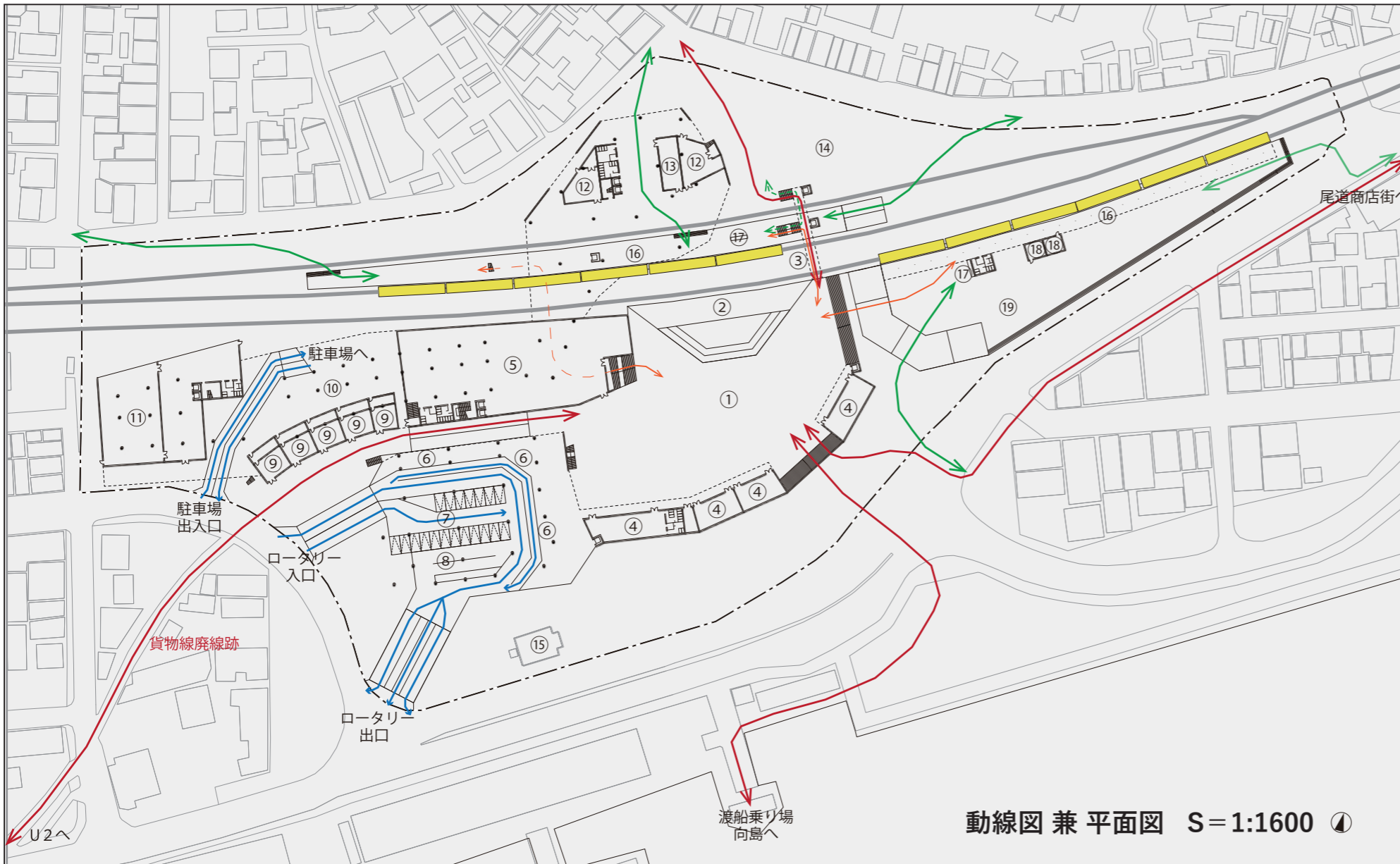
背後から見られることがないように場を設けること







東立面図 1:300

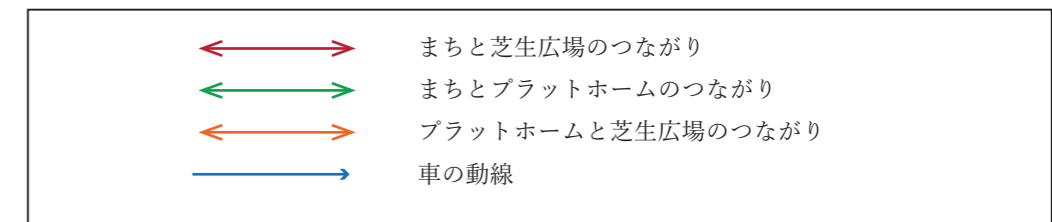


動線図兼平面図 S=1:1600

技術開発により、近年のうちに、改札口が無くなるのではと考え、車両のドア付近で自動精算されるものと仮定した。これにより、プラットフォームどこからでも入り、自由に滞在・通り抜けるようになり、まちとシームレスなえきが実現した。

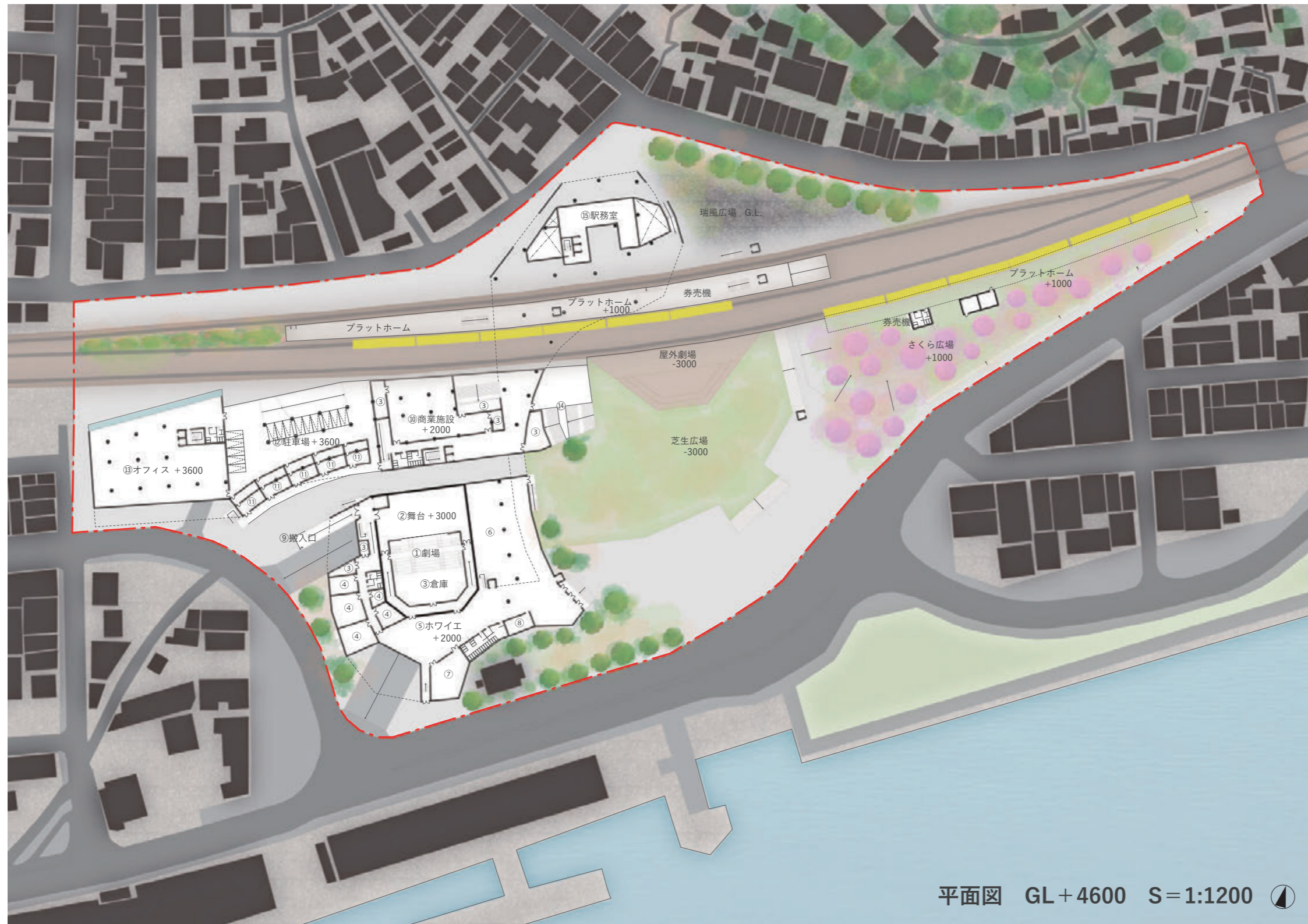
なお、一番北側の線路である3番線は、臨時用で使用頻度は極めて少ない。そのため、人が立ち入りできるようにして、2・3番ホームへの通り道とすることで、利用客の上下移動の負担を軽減する。3番線に列車が停車しているときは、地下通路または3Fコンコースを通じて、ホームにアクセスできるようになっている。

また、尾道駅にはかつて、海運倉庫（現 ONOMICHI U2）へと向かう貨物線が存在し、その廃線跡の一部は現在、駐輪場となっている。この廃線跡を歩行者・自転車道にし、尾道駅とU2（尾道観光・しまなみ海道サイクリングの拠点）を結ぶ計画を提案する。

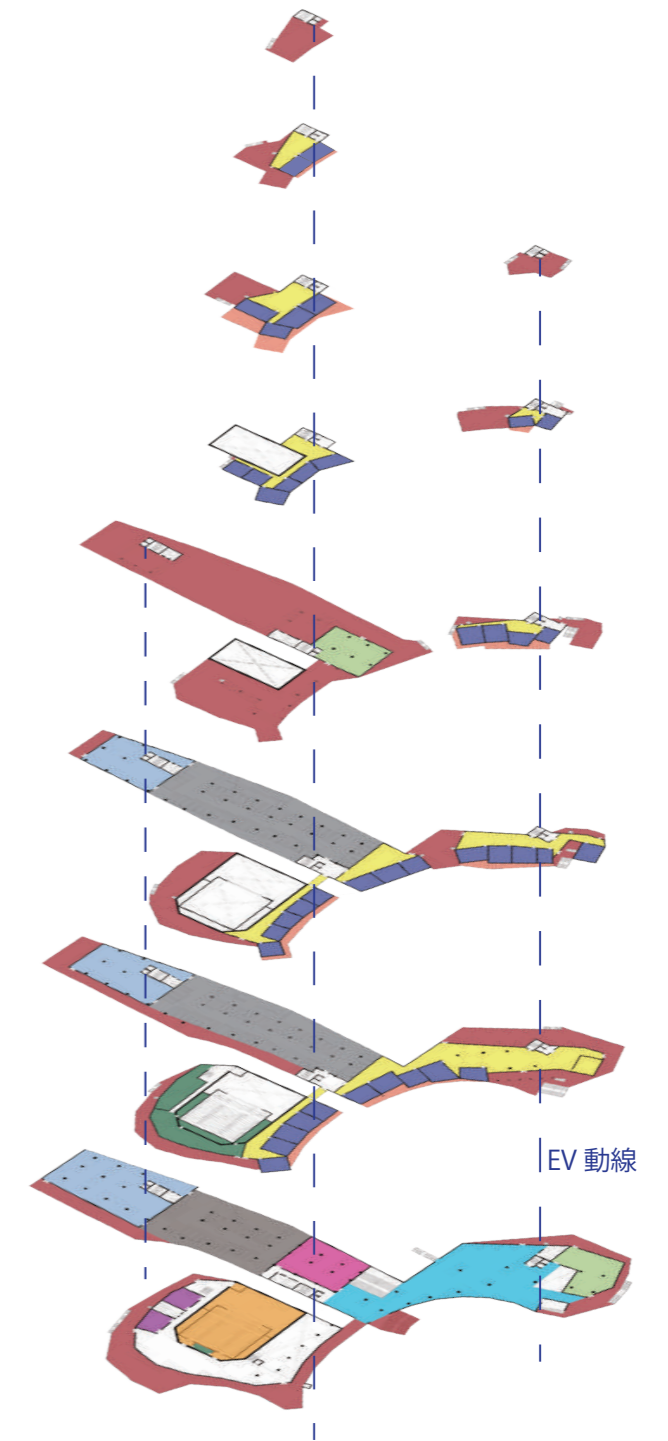


各所の機能と高さ		
◆G.L.-3000	◆G.L.	◆G.L.+1000
①芝生広場	⑨テナント	⑬プラットフォーム
②屋外劇場	⑩駐輪場	⑭券売機
③地下通路	⑪オフィス	⑮観光案内所
④テナント	⑫多目的室	⑯さくら広場
⑤商業施設	⑬駅務室	
⑥バス・タクシー乗場	⑭瑞風広場	
⑦駐車場	⑮神社（既存）	
⑧タクシー待機場		





平面図 GL + 4600 S = 1:1200



3F~10F 各階平面図

各所の機能と高さ

- |                    |                      |                   |                   |
|--------------------|----------------------|-------------------|-------------------|
| ①劇場                | ⑤ホワイエ (G.L.+2000)    | ⑨搬入口              | ⑬オフィス (G.L.+3600) |
| ②舞台 (G.L.+3000)    | ⑥市民ギャラリー (G.L.+2000) | ⑩商業施設 (G.L.+2000) | ⑭大階段・テラス          |
| ③倉庫 (G.L.+2000)    | ⑦事務室 (G.L.+2000)     | ⑪テナント (G.L.+3600) | ⑮駅務室 (G.L.+3600)  |
| ④楽屋・控室 (G.L.+2000) | ⑧クロック (G.L.+2000)    | ⑫駐車場 (G.L.+2000)  |                   |

- |            |               |
|------------|---------------|
| ■ 屋上テラス    | ■ スタジオ        |
| ■ 集合住宅共用部  | ■ 休憩・イベントスペース |
| ■ 住戸       | ■ 商業施設        |
| ■ 住戸バルコニー  | ■ 劇場          |
| ■ 操作室・機械室等 | ■ 駐車場         |
| ■ オフィス     | ■ コンコース       |



## 山のような VOLUME



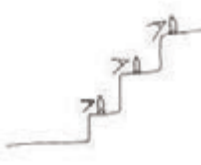
様々な角度から見られること



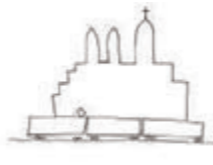
平面と立面がともに存在すること



様々な高さから見られること



大きな立面をつくり背景とすること



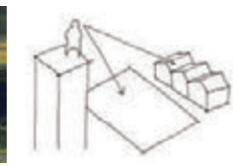
芝生広場・線路を取り囲むスタジアム地形となっている「山のような VOLUME」は、「様々な角度・高さから見られる場をつくること」というルールに基づいてつくられた。これにより、駅にいる人々の中で「見る / 見られる関係」が生まれ、一体感のある風景が成立している。

また、芝生広場とセットで「大きな平面と立面」をつかっており、典型的な生きられる景観である「山の辺の景観」に似た空間構成となっている。芝生広場からは、この VOLUME を背景にして発車する列車を眺めることができる。この山のような駅が、尾道の新しいランドマークとなることを願っている。

## 展望デッキ



特徴的な平面を俯瞰できる場を設けること



周りの風景、特に山と水面を取り入れること



屋上のテラスはオープンスペースとしてあらゆる人々に開放されており、平面である芝生広場や線路を見下ろすことができる。その奥には尾道水道や千光寺山が見え、坂の街として名高い尾道の風景を一望することができる。

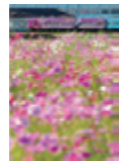
## 芝生広場



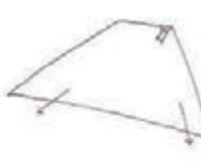
平面と立面がともに存在すること



色鮮やかであること



のびのびとした広がりがあること



この駅を中心に位置するのが、大きく鮮やかな平面である芝生広場である。のびのびとした広がりのある心地よい場であり、憩いの場やイベントスペースとして多くの人で賑わう。

## 大階段



人がつくる賑わいを風景に取り入れること

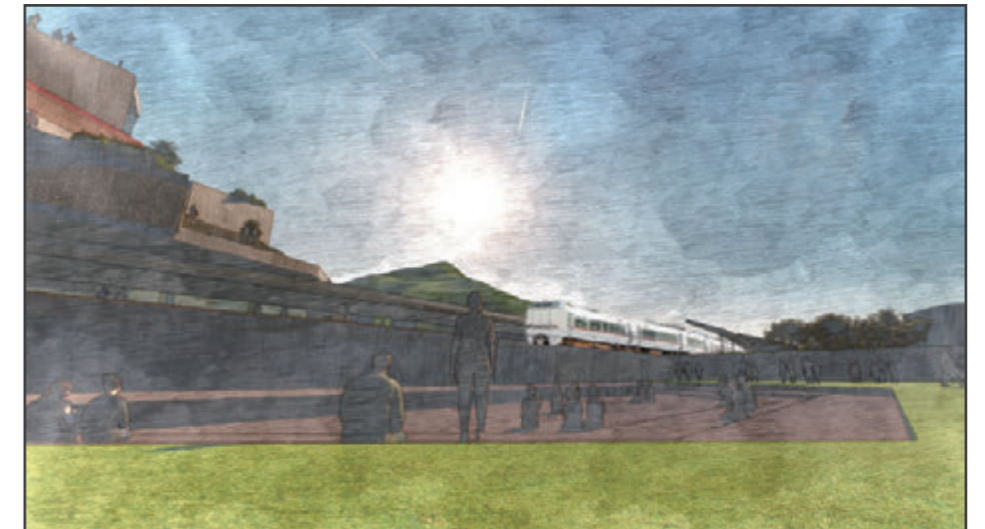


流れが感じられる場であること



芝生広場とコンコース・商業施設などを結ぶ大階段は、人々の通り道であると同時に、憩いの場として居場所にもなっている。多くの人々が滞在あるいは通過することで、この駅の風景に賑わいを生むことができる。また、往来する人々の流れで、より動きのある風景がつけられる。

## 屋外劇場



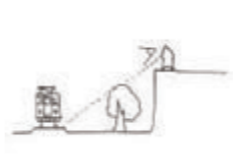
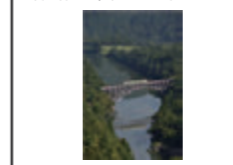
空を見上げれる場を設けること



流れが感じられる場であること



線路・車両への見通しがいいこと



掘り下げたところにある屋外劇場は空を眺めることができる開放的な場である。そのすぐ上に線路があり、発車・通過する列車の速さや迫力を間近で感じられる場である。



## 周囲との関係



周りの風景、特に山と水面を取り入れること

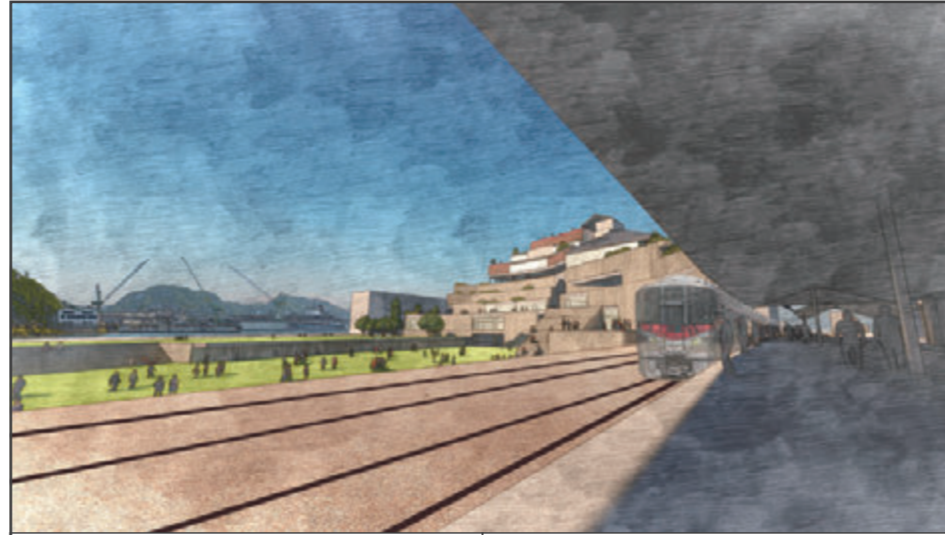


地域限定の風景をつくること



向島及び尾道水道からこの駅を眺める。千光寺山と連なって一体の風景をつくっている。風景にその地域の山や海を取り入れることで、他にはないその駅特有の魅力を生み出している。また、駅前渡船は「しまなみ海道サイクリングロード」の一部となっており、四国からはるばるやってきたサイクリストにとって、この眺めは旅のクライマックスとなる風景である。

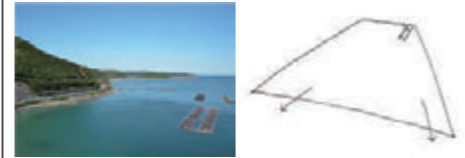
## プラットホーム



線路・車両への見通しがいいこと



のびのびとした広がりがあること

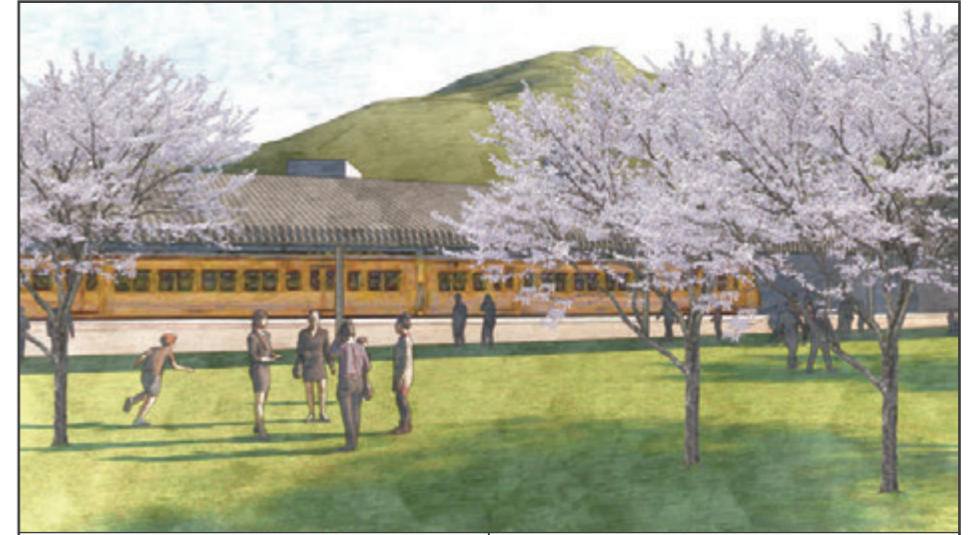


周りの風景、特に山と水面を取り入れること

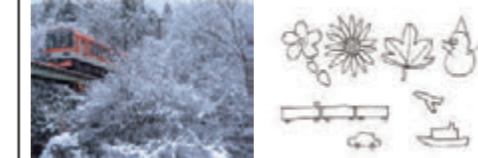


2つホームは千鳥状にずれて配置されているため、視界が遮られず、海まで見通せる開放的な景色が広がる。また、各所から列車を眺めることができるのは、線路への見通しをホームが遮らないこの配置ゆえである。

## さくら広場



期間限定の風景をつくること



自然物で溢れる風景をつくること



小さな立面をつくり前景とすること

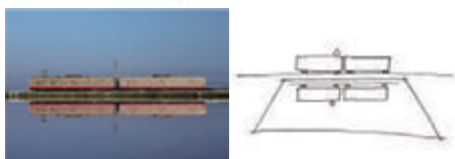


ホームと一体のさくら広場は、自然物と季節感の溢れる風景を生み出している。この桜は前景として風景を切り取るフレームにもなり得る。また、桜は尾道のシンボルでもある。

## 瑞風広場



リフレクションを活かすこと



人がつくる賑わいを風景に取り入れること



石畳の瑞風広場では、雨の後はリフレクションを楽しむことができる。また、「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」が停車する3番線に隣接しており、「瑞風」のお出迎え、お見送りの場としても活用される。駅の北側エリアは住宅地であり、観光客よりも地域の人々の利用が多い。地域の人々の憩いの場として、また子供たちの遊び場として愛されることだろう。

## トレイン・シェッド



どこかにつながっている期待感があること



山を貫くトンネルのようにも見えるトレイン・シェッドは、ホームに心地よい軒下の大空間を提供するだけでなく、線路のもつ方向性を強調し、「どこかにつながっている期待」を感じさせる。一番手前の3番線は定期列車の発着がないため利用客に開放し、ホームへのアクセスとして使えるようになっている。

## カーテンウォール



光を楽しめる場を設けること



大きな立面をつくり背景とすること



オフィスの北側壁面はガラスのカーテンウォールとなっており、空が映し出される。向きをやや西に振っており、北側の道路から見たときに、西の夕焼け空が反射するように計算されている。夕日輝くカーテンウォールが背景となり、列車のシルエットが浮かび上がる。



U2 へと続く谷



どこかにつながっている期待感があること

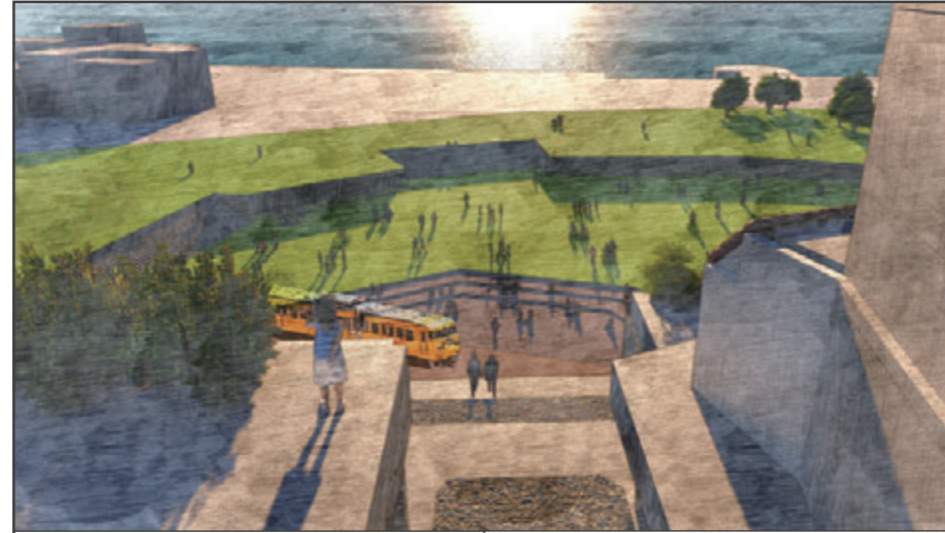


流れが感じられる場であること



かつて尾道駅と海運倉庫（現 ONOMICHI U2）を結んでいた貨物線の廃線跡（線路現存せず。一部は道路及び駐輪場となっている。）に谷のような通り道をつくることで、廃線跡を空間として可視化する。深い谷のような景観はその奥の U2 へと続くわくわく感を演出する。また、人々の流れも感じられる空間である。

海を眺める



通景の先にアイストップを設けること



周りの風景、特に山と水面を取り入れること



光を楽しめる場を設けること



真っ直ぐに伸びる階段から眺める。その抜けの先には尾道水道がアイストップとしてきらきらと輝いている。階段の先に見える海は尾道を代表する風景のひとつである。

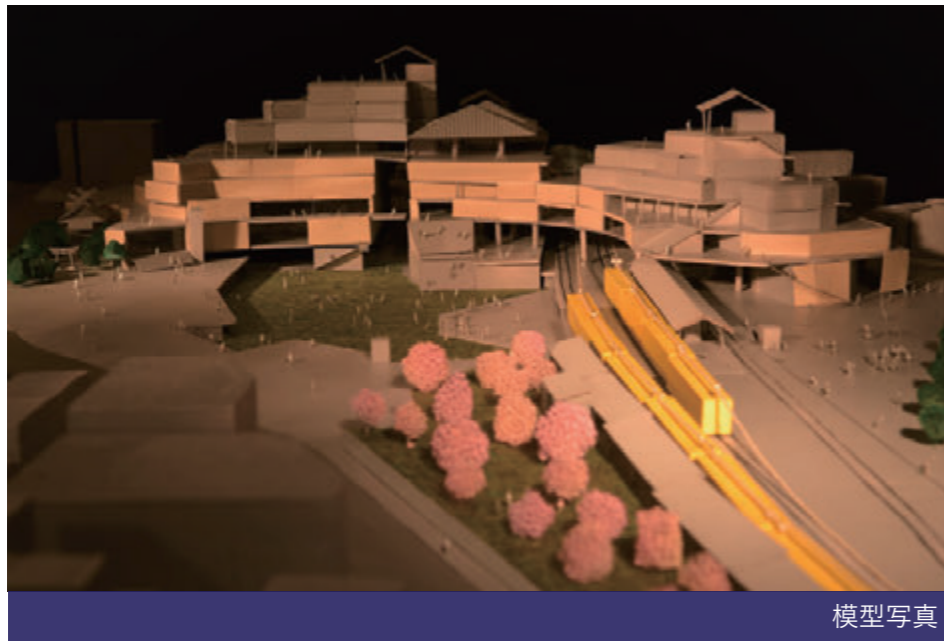
坂の街



地域限定の風景をつくること



坂の街を彷彿とさせる階段、石垣を連想させる石材を用いた壁面、その上に建つ勾配屋根の家々。いずれも「尾道らしい風景」を引用し、この地域に根付いた風景の駅を目指した。住戸の壁面には木材や漆喰など複数の素材を用い、単調な風景にならないように心がけた。



模型写真



模型写真



展示の様子

作品名：PHOTO SCAPE - 鉄道写真からつくる「生きられる景観」としての駅-  
 作者：小西 泰平（柳沢研究室）  
 発表：2020年2月14日  
 制作期間：約5か月